

OLYMPUS

Your Vision, Our Future

2015年3月期 第2四半期 決算説明会

2014年11月7日
オリンパス株式会社
代表取締役社長執行役員
笹 宏行

2015年3月期第2四半期実績

◆好調な医療事業が全社業績を牽引し、リーマンショック（2008年度）以降の
上期営業利益として最高となる384億円を計上

(単位：億円)	2014年3月期 2Q累計（4-9月） （実績）	2015年3月期 2Q累計（4-9月） （期初見通し）	2015年3月期 2Q累計（4-9月） （実績）	前年 同期比	予想値比
売上高	3,338	3,600	3,550	+6%	△1%
営業利益 （営業利益率）	285 (8.5%)	350 (9.7%)	384 (10.8%)	+35%	+10%
経常利益 （経常利益率）	170 (5.1%)	250 (6.9%)	297 (8.4%)	+75%	+19%
当期純利益 （当期純利益率）	△79 (-)	130 (3.6%)	223 (6.3%)	-	+72%

2015年3月期 通期業績見通し

◆通期見通しは据え置き（映像事業の厳しい環境を医療事業中心にカバー）

(単位：億円)	2014年3月期 通期 (実績)	2015年3月期 通期 (見通し)	増減額	前期比
売上高	7,133	7,600	+467	+7%
営業利益 (営業利益率)	734 (10.3%)	880 (11.6%)	+146 (+1.3pt)	+20%
経常利益 (経常利益率)	509 (7.1%)	700 (9.2%)	+191 (+2.1pt)	+38%
当期純利益 (当期純利益率)	136 (1.9%)	450 (5.9%)	+314 (+4.0pt)	+230%

医療事業

過去最高業績と戦略投資の推進

映像事業

事業規模の適正化

医療

医療事業の上期決算として過去最高の業績を達成
中期ビジョン最終年度の目標達成に向けた戦略投資推進

◆戦略投資により、2017年3月期に向け年平均9%の売上高成長を実現

➤ 要員強化、販売促進、
研究開発投資、いずれも
計画通りに進捗

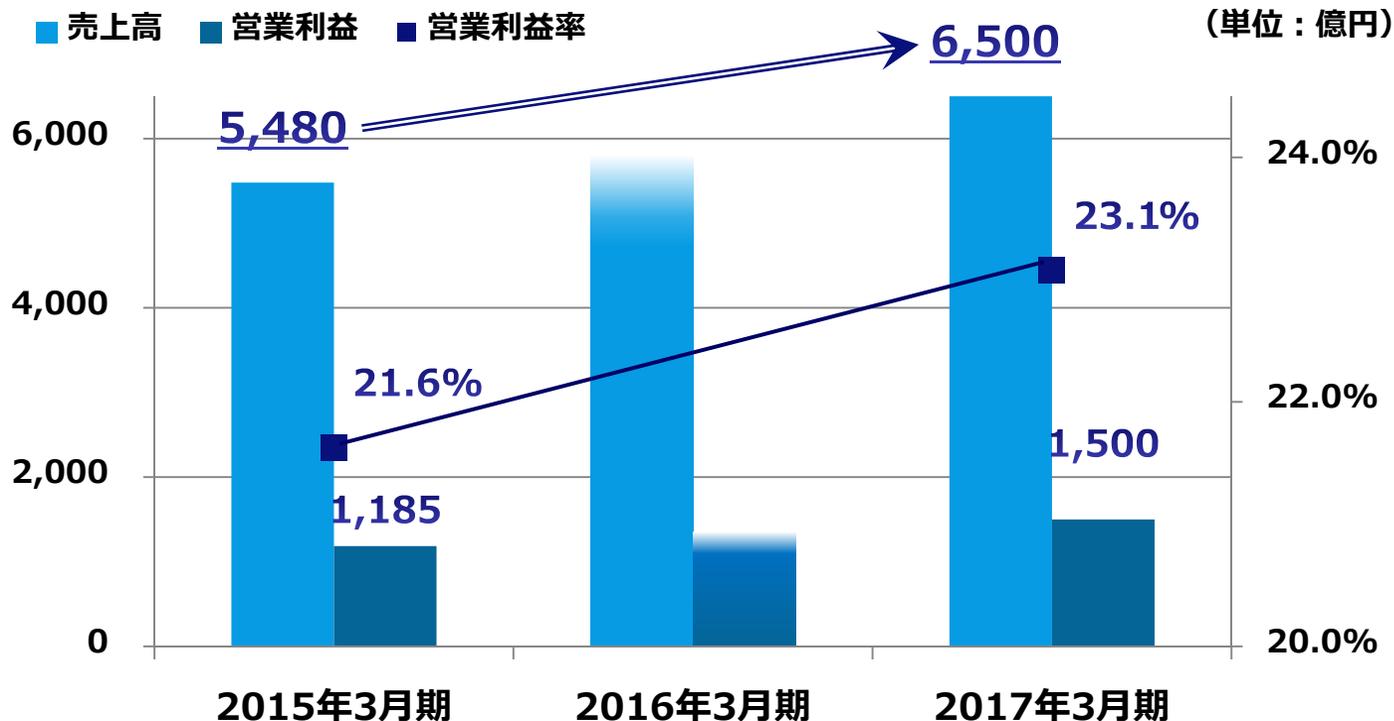
<うち要員強化進捗>

年間 1,000名の増員目標に
対して、約70%の進捗

<トピックス>

北米の処置具分野で要員体制強化
の効果が出始めており、前年同期
比16%増収 (2015/3期 4-9月)

【中期ビジョン業績目標】



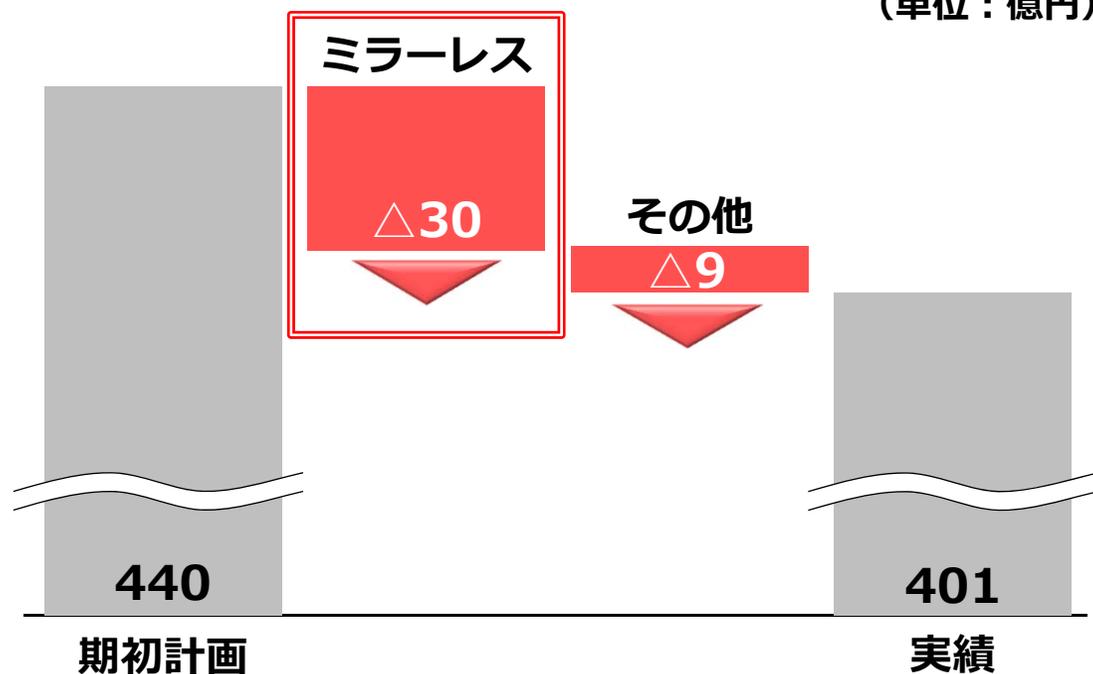
映像事業 営業損失拡大の要因

映像

高い成長を目指したミラーレスの売上高未達により、
営業損失が拡大

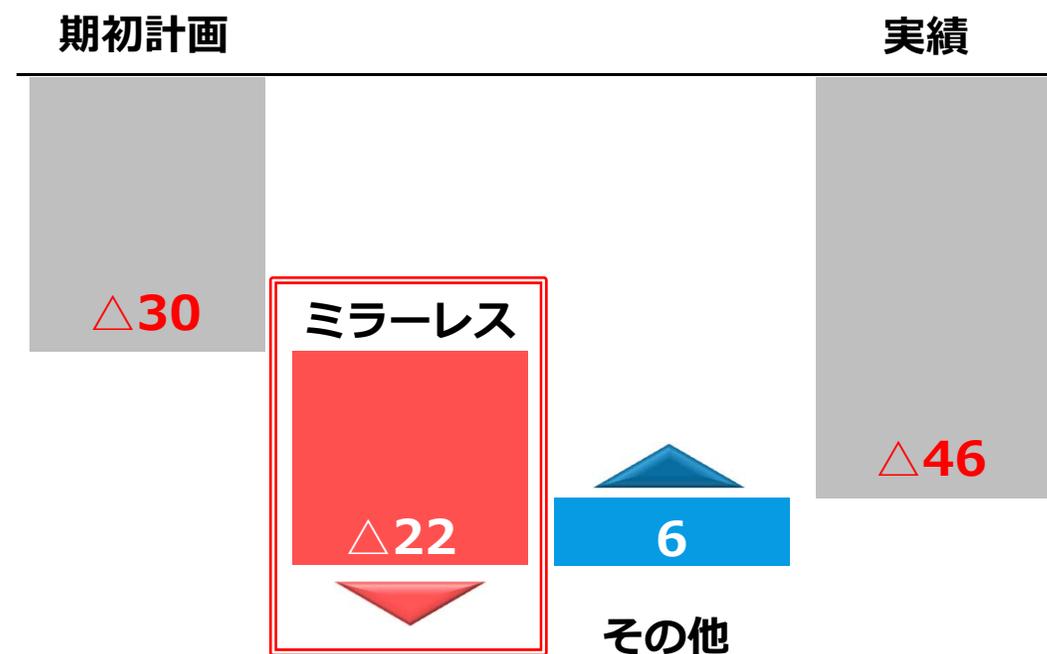
➤ 売上高 未達要因

(単位：億円)



➤ 営業利益 未達要因

(単位：億円)



<ミラーレス 計画未達の要因>

1 日本・アジア市場の減速

2 PENシリーズの減速

3 円安による原価率の悪化

事業規模の適正化

ミラーレスの拡大を見直し、来期の収支均衡を最優先に構造改革

1 800億円以下の売上高で収支均衡できる費用水準

- 販管費20%削減を前提とした構造改革

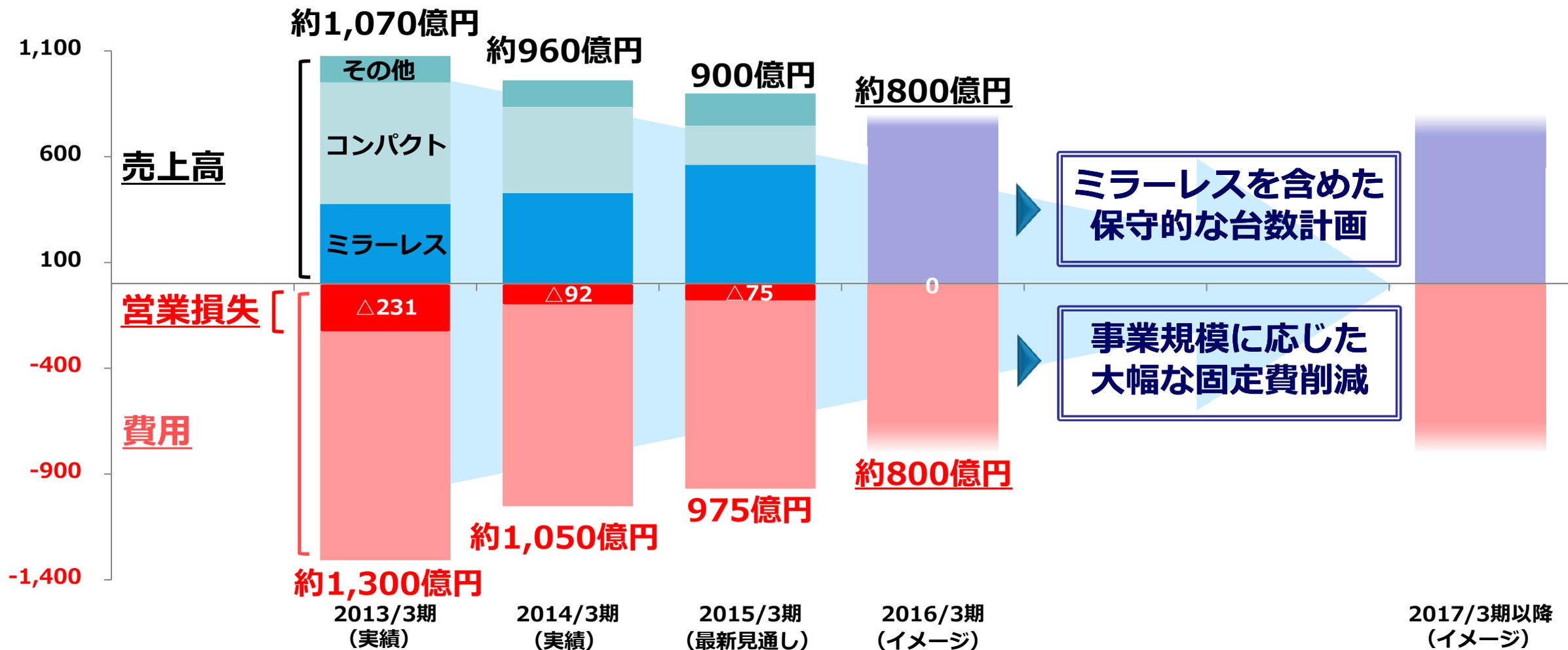
2 固定費の見直し・合理化

- 製造、開発、間接部門リソースシフト

3 地域戦略の見直し

- 市場成長が見込めない地域のリソース圧縮

◆保守的な販売計画による売上とそれに応じた費用水準



OLYMPUS

OLYMPUS

Your Vision, Our Future

2015年3月期 第2四半期 連結決算概況

2014年11月7日
オリンパス株式会社
取締役専務執行役員
グループ経営統括室長
竹内 康雄

2015年3月期 第2四半期 連結業績および事業概況

2015年3月期 第2四半期実績 ①連結業績概況

- ◆上期の売上高は前年同期比6%増、営業利益は35%増
- ◆当期純利益は前期の赤字から大幅に改善し、223億円を計上

(単位：億円)	2Q累計 (4-9月)				2Q実績 (7-9月)		
	2014年3月期	2015年3月期	増減額	前年同期比	2014年3月期	2015年3月期	前年同期比
売上高	3,338	3,550	+212	+6%	1,746	1,880	+8%
販管費 (販管費率)	1,764 (52.9%)	1,870 (52.7%)	+106 (-0.2pt)	+6%	904 (51.8%)	956 (50.9%)	+6%
営業利益 (営業利益率)	285 (8.5%)	384 (10.8%)	+99 (+2.3pt)	+35%	203 (11.6%)	234 (12.4%)	+15%
経常利益 (経常利益率)	170 (5.1%)	297 (8.4%)	+127 (+3.3pt)	+75%	146 (8.3%)	185 (9.8%)	+27%
当期純損益 (当期純利益率)	△79 (-)	223 (6.3%)	+303 (-)	-	△61	142 (7.5%)	-
円/US\$	99円	103円	4円 (円安)				
円/Euro	130円	139円	9円 (円安)				
売上高への影響額	-	+136億円					
営業利益への影響額	-	+53億円					

2015年3月期 第2四半期実績 ②セグメント別概況

- ◆医療事業は売上高・営業利益ともに上期として過去最高を更新し、全社業績を牽引
- ◆その他事業は、バイオリジクス事業からの撤退により黒字化

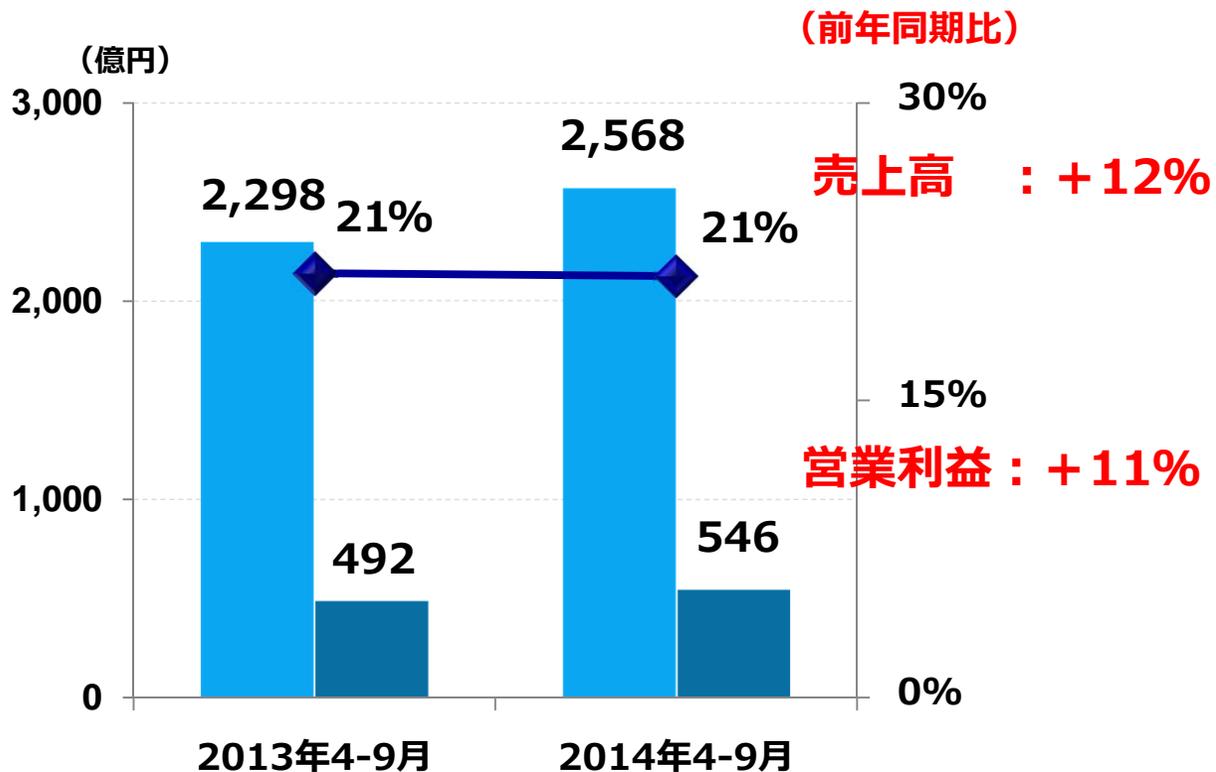
(単位：億円)		2Q累計 (4-9月)				2Q実績 (7-9月)			
		2014/3	2015/3	増減額	前年同期比	2014/3	2015/3	増減額	前年同期比
医療	売上高	2,298	2,568	+270	+12%	1,219	1,359	+140	+11%
	営業利益	492	546	+54	+11%	307	304	△3	△1%
科学	売上高	440	467	+27	+6%	240	256	+16	+7%
	営業利益	5	13	+7	+129%	15	15	△0	△1%
映像	売上高	470	401	△69	△15%	221	203	△18	△8%
	営業利益	△27	△46	△19	-	△21	△24	△2	-
その他	売上高	130	114	△15	△12%	65	62	△3	△5%
	営業利益	△28	7	+35	-	△14	4	+18	-
全社・消去	売上高	-	-	-	-	-	-	-	-
	営業利益	△157	△136	+21	-	△84	△66	+18	-
連結合計	売上高	3,338	3,550	+212	6%	1,746	1,880	+134	+8%
	営業利益	285	384	+99	+35%	203	234	+30	+15%

2015年3月期 第2四半期実績 ③医療事業

- ◆内視鏡、外科、処置具全分野が好調に推移し、売上高、営業利益ともに過去最高
- ◆2Q（7-9月）の営業利益率低下は戦略投資によるもの

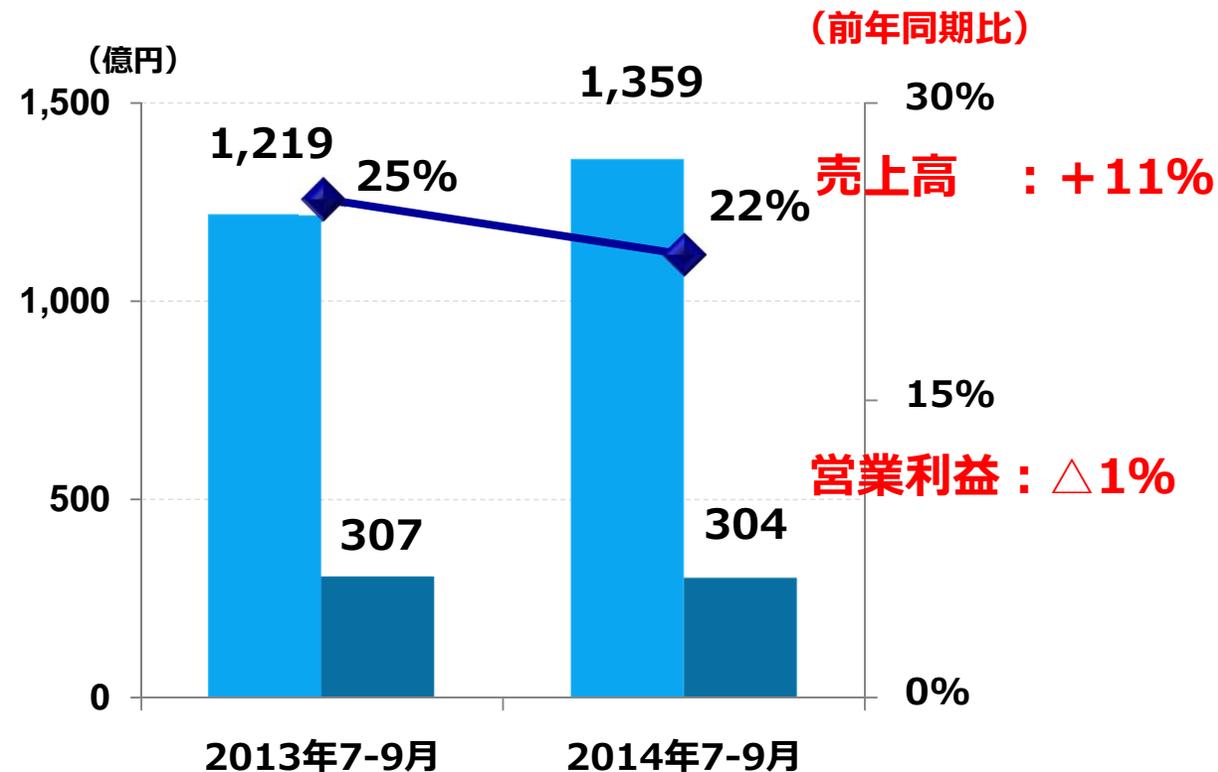
上半期（4-9月）

■売上高 ■営業利益 ◆営業利益率



2Q（7-9月）

■売上高 ■営業利益 ◆営業利益率

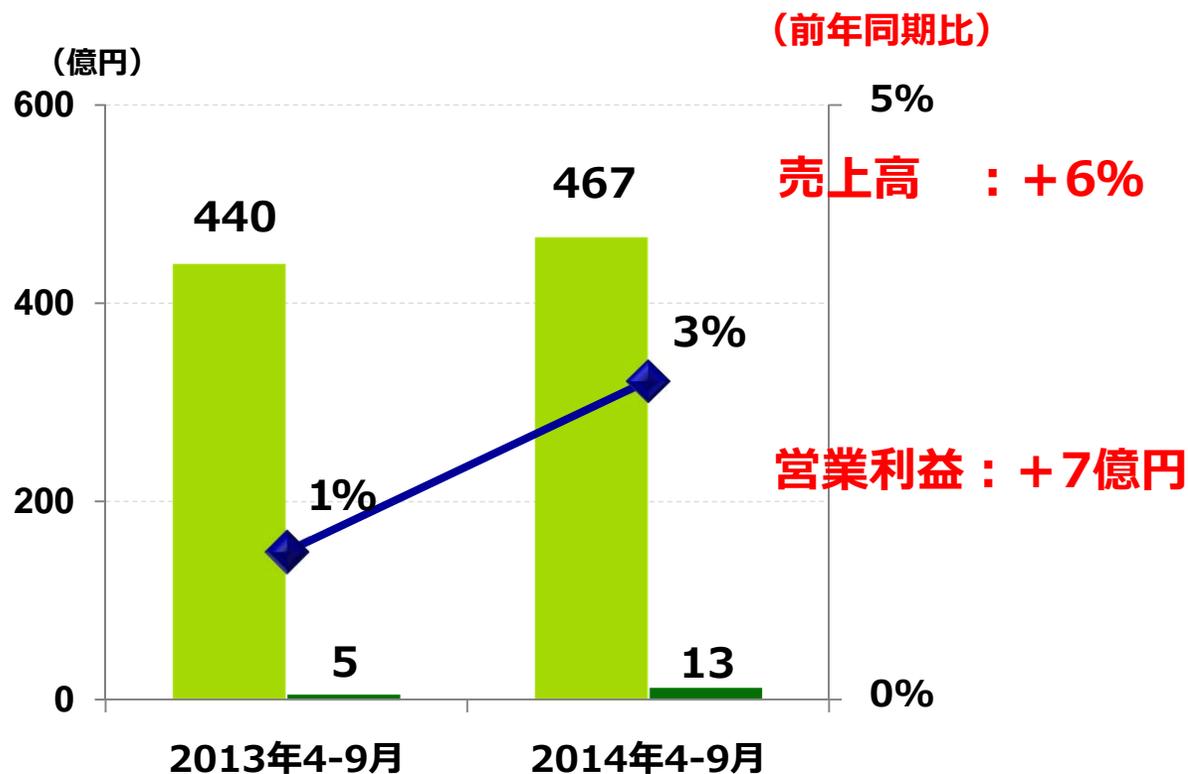


2015年3月期 第2四半期実績 ④科学事業

- ◆海外を中心に好調な非破壊検査分野、生物顕微鏡分野が牽引し、増収増益を確保
- ◆戦略転換、構造改革は予定通り進捗

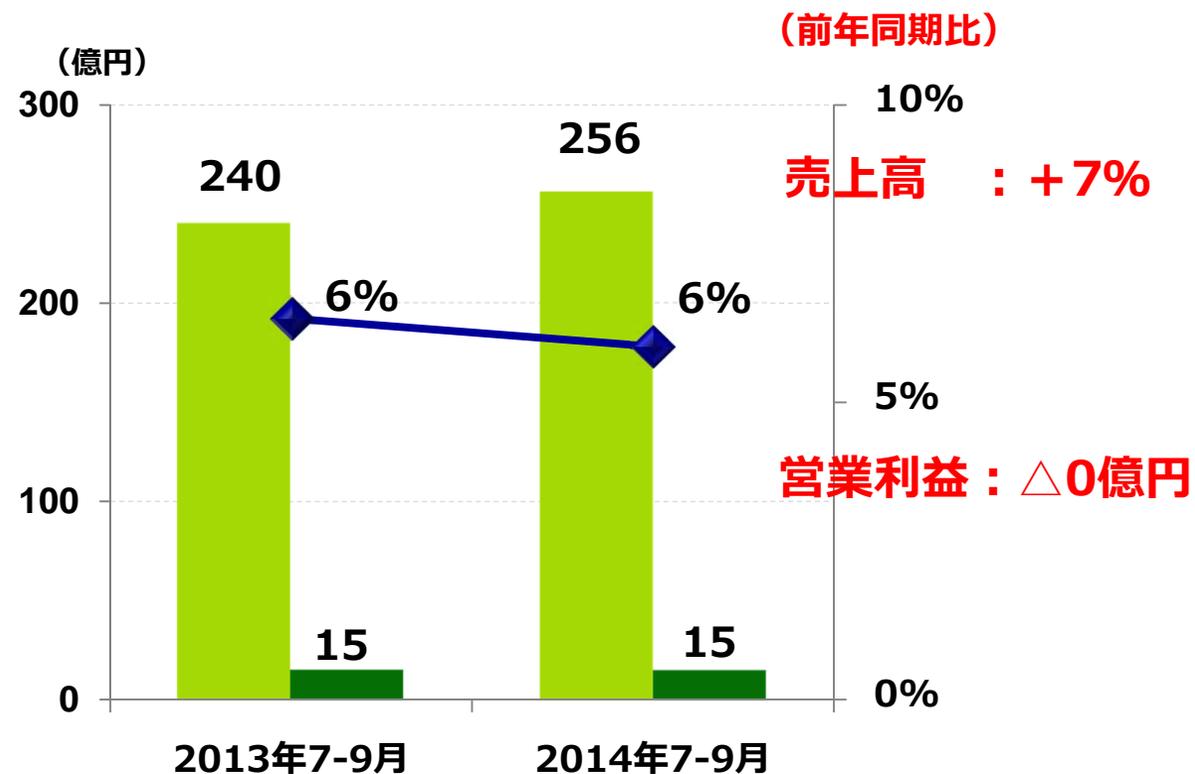
上半期 (4-9月)

売上高 営業利益 営業利益率



2Q (7-9月)

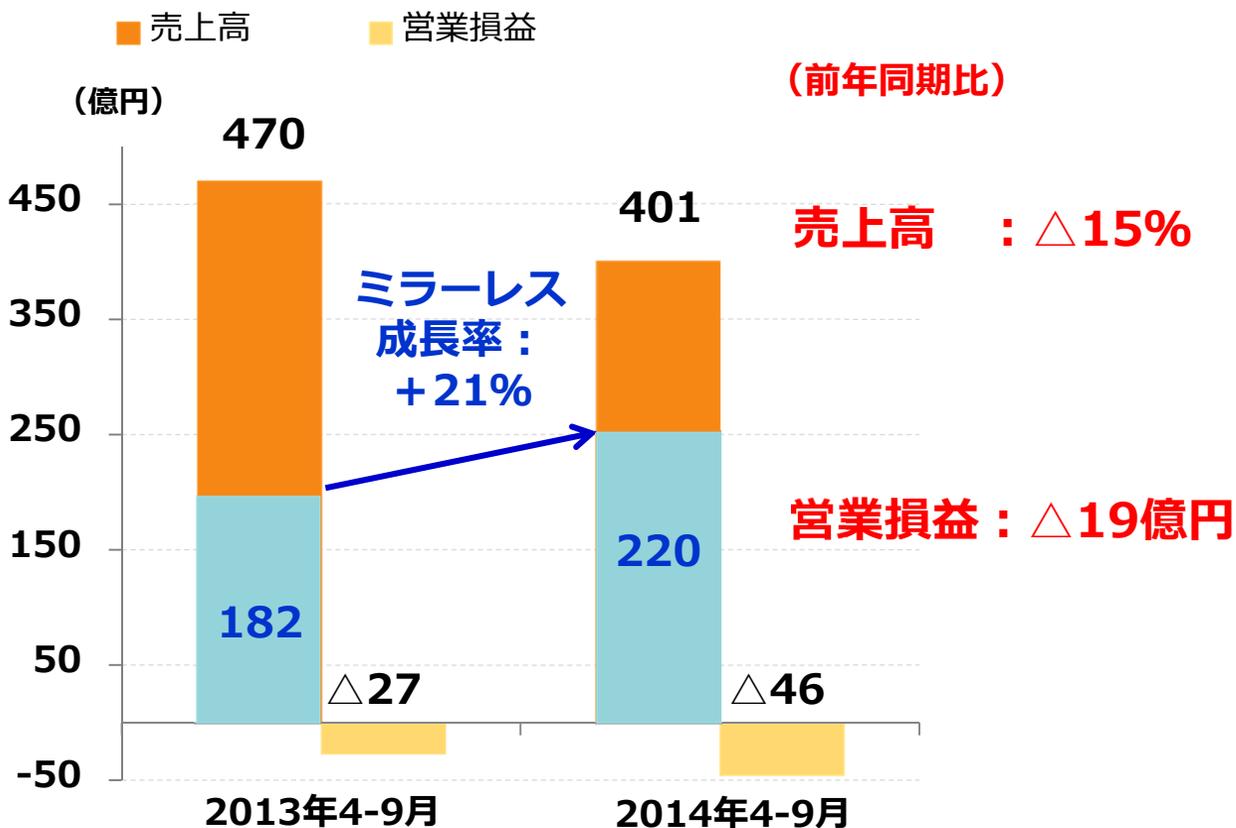
売上高 営業利益 営業利益率



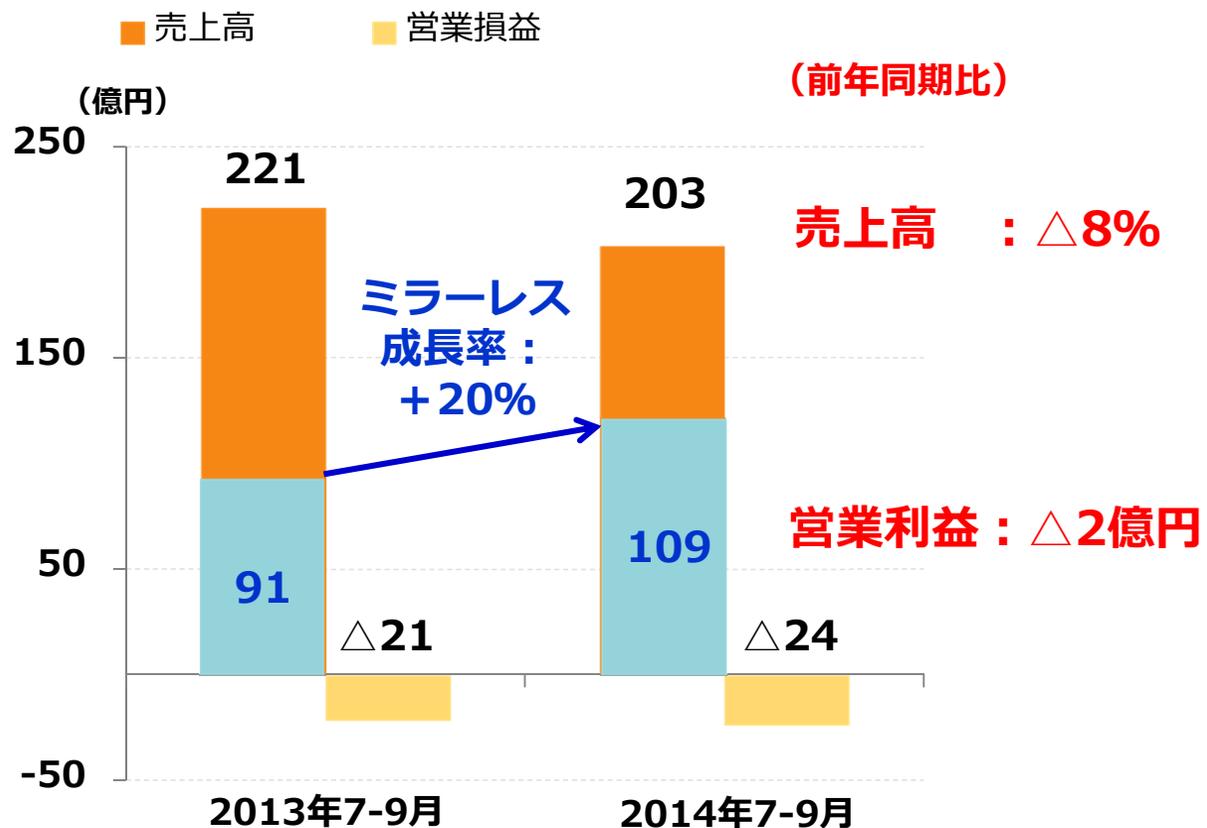
2015年3月期 第2四半期実績 ⑤映像事業- (1)

- ◆コンパクトの販売台数縮小により売上高は15%の減収も、ミラーレスは前期比約20%増収
- ◆ミラーレス及びB to Bへの投資増加により営業損失は46億円

上半期 (4-9月)



2Q (7-9月)



2015年3月期 第2四半期実績 ⑤映像事業- (2)

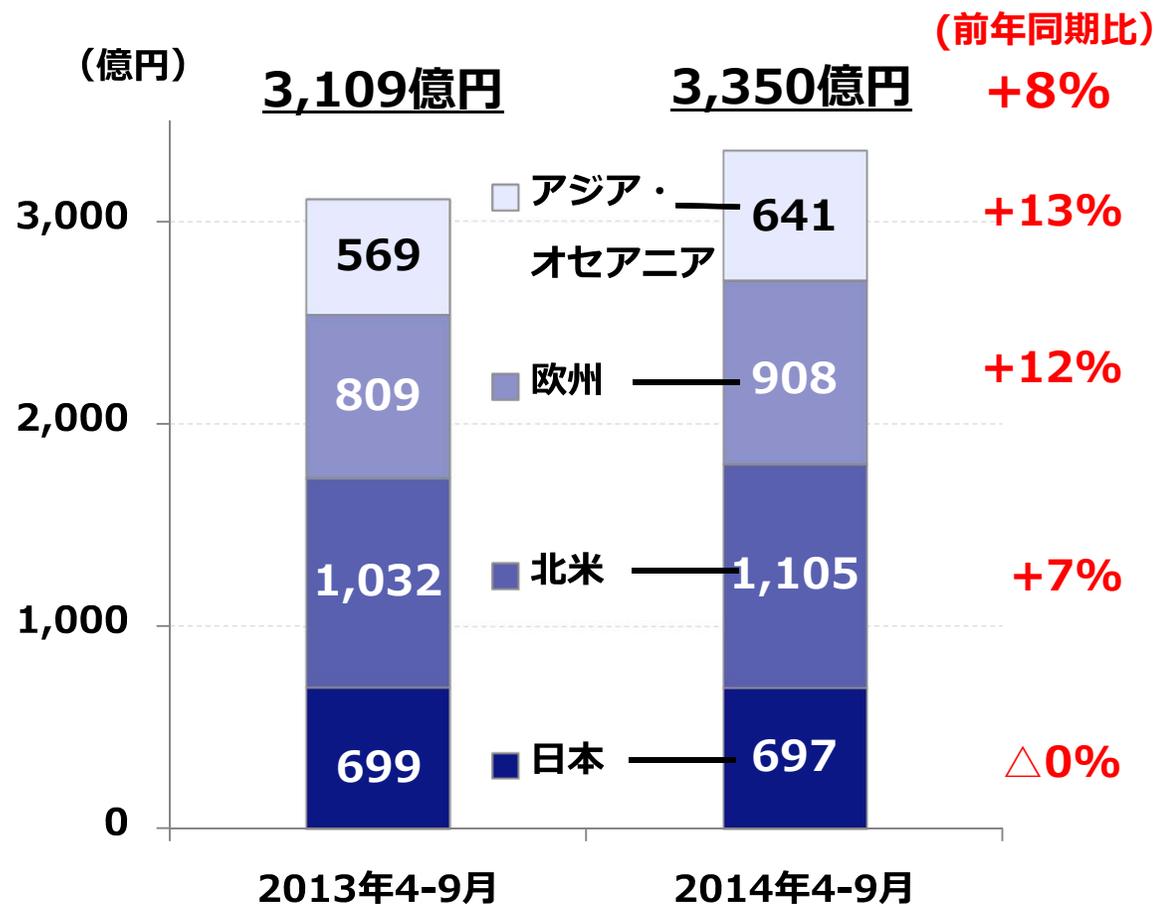
2015年3月期 上半期実績の前年同期比

(億円)	2014/3期 2Q (4-9月)	2015/3期 2Q (4-9月)	増減	
売上高	470	401	△69	売上高減少 コンパクトカメラの販売減をミラーレスで補えず、前年同期比減収
ミラーレス	182	220	+38	
コンパクトカメラ・その他	289	181	△107	
売上総利益	221	182	△39	粗利減少
販管費 (販管费率)	248 (52.7%)	228 (56.8%)	△20 (+4.1pt)	販管费率悪化 ミラーレス、B to Bへの投資増加
営業損益	△27	△46	△19	営業損失拡大

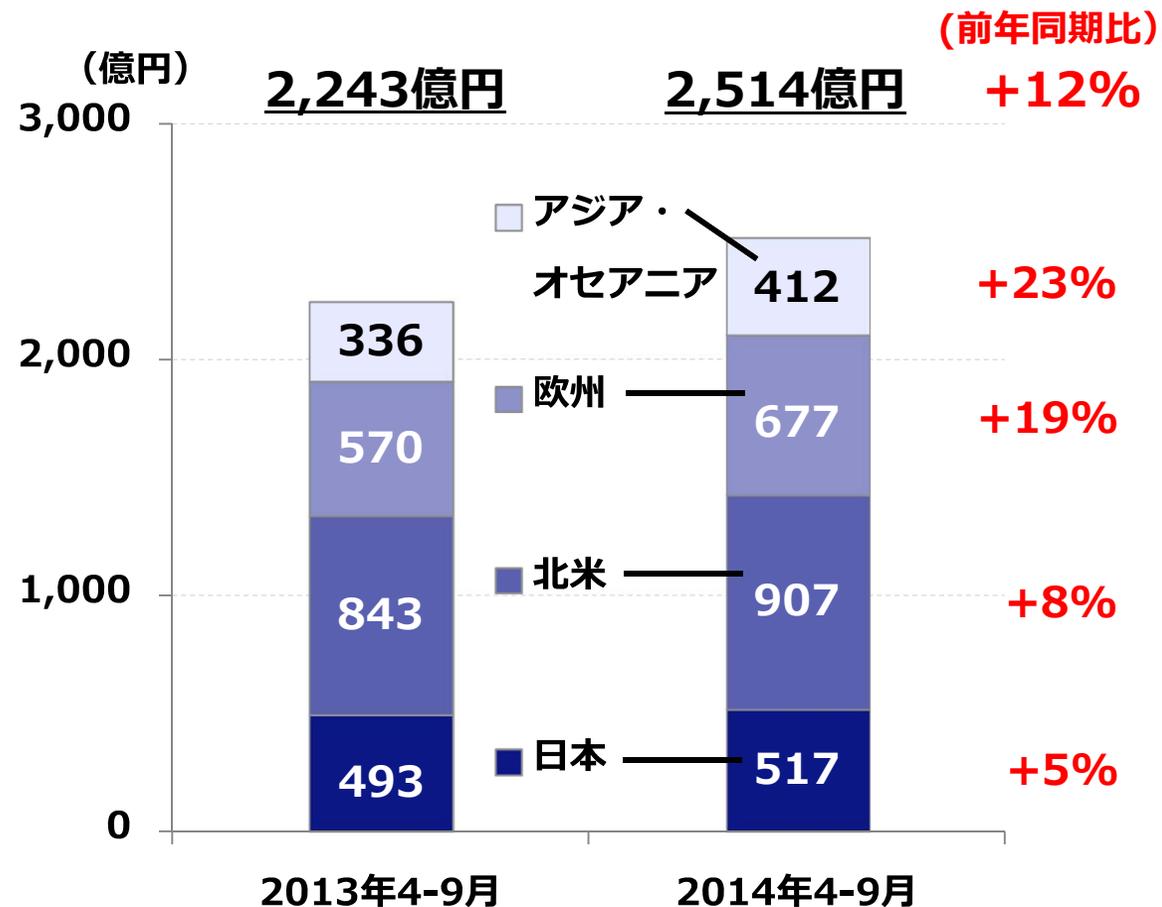
2015年3月期 第2四半期実績 ⑥地域別売上高

◆ 好調な医療事業が牽引し、日本を除く全地域で増収
 (日本：消費税増税後の反動等による科学、映像事業の売上減少)

連結 (4-9月) (※)



医療 (4-9月)



2015年3月期 第2四半期実績（期初見通し比） ⑦営業増益の要因

医療事業（+26億円）

収益性の高い消化器内視鏡が好調に推移したことに加え、処置具の収益拡大により計画上振れ

科学事業（+13億円）

産業分野の新製品効果による利益率改善、販管費の削減により計画上振れ

映像事業（△16億円）

ミラーレスの売上高未達、ミラーレスへの投資継続による販管費率の上昇により計画下振れ

（単位：億円）

※増減数値は計画との差額



連結貸借対照表（2014年9月末）

- ◆ 自己資本比率は 36.8%。有利子負債は、早期弁済も含めて 約559億円圧縮
- ◆ ミラーレスを中心としたデジカメ在庫が課題
（下期の販売によって在庫は減少する見込み）

(単位：億円)	2014年 3月末	2014年 9月末	増減額		2014年 3月末	2014年 9月末	増減額
流動資産 (デジカメ在庫)	5,765 (217)	5,439 (281)	△327 (+64)	流動負債	2,763	2,746	△17
有形固定資産	1,354	1,405	+50	固定負債 (内：社債・長期借入金)	4,199 (3,468)	3,595 (2,839)	△604 (△629)
無形固定資産	1,736	1,752	+16	純資産	3,313	3,729	+417
投資その他資産	1,420	1,475	+55	(自己資本比率)	(32.1%)	(36.8%)	(+4.7pt)
資産合計	10,275	10,070	△205	負債 純資産 合計	10,275	10,070	△205

有利子負債 : 3,599億円 (2014年3月末比 △559 億円)
 純有利子負債 : 1,513億円 (2014年3月末比 △125 億円)

連結キャッシュフロー計算書（2014年4月～2014年9月）

(単位：億円)	2014年3月期2Q	2015年3月期2Q	増減
売上高	3,338	3,550	+212
営業利益	285	384	+99
(%)	8.5%	10.8%	+2.3pt
営業CF	294	296	+2
投資CF	△107	△143	△35
財務CF	△219	△597	△378
キャッシュフロー	△32	△444	△412
フリーキャッシュフロー	187	153	△34
現金及び現金同等物期末残高	2,290	2,086	△204

減価償却費	169	174	+6
のれん償却額	47	45	△1
設備投資額	172	174	+2

2015年3月期 通期業績見通し

2015年3月期 通期業績見通し

(単位：億円)	2014年3月期 (実績)	2015年3月期 (見通し)	増減額	前期比
売上高	7,133	7,600	+467	+7%
営業利益 (営業利益率)	734 (10.3%)	880 (11.6%)	+146 (+1.3pt)	+20%
営業外収支	△225	△180	+45	-
経常利益 (経常利益率)	509 (7.1%)	700 (9.2%)	+191 (+2.1pt)	+38%
当期純利益 (当期純利益率)	136 (1.9%)	450 (5.9%)	+314 (+4.0pt)	+230%
円/US\$	100円	105円	5円 (円安)	
円/Euro	134円	137円	3円 (円安)	
売上高への影響額	-	+160億円		
営業利益への影響額	-	+82億円		

2015年3月期 セグメント別業績見通し

- ◆ 医療、科学、その他の営業利益を上方修正
- ◆ 映像事業は、ミラーレスの影響により下方修正

(単位：億円)		2014年3月期 (実績)	2015年3月期 (最新見通し)	前期比	2015年3月期 (期初見通し)	期初見通し比 増減額
医療	売上	4,923	5,480	+11%	5,400	+80
	営業利益	1,127	1,185	+5%	1,150	+35
科学	売上	985	1,040	+6%	1,040	±0
	営業利益	49	50	+1%	45	+5
映像	売上	961	900	△6%	970	△70
	営業利益	△92	△75	-	△35	△40
その他	売上	264	180	△32%	190	△10
	営業利益	△54	0	-	0	±0
全社・消去	売上	-	-	-	-	-
	営業利益	△297	△280	-	△280	±0
連結合計	売上	7,133	7,600	+7%	7,600	±0
	営業利益	734	880	+20%	880	±0

映像事業 2015年3月期 通期見直し修正

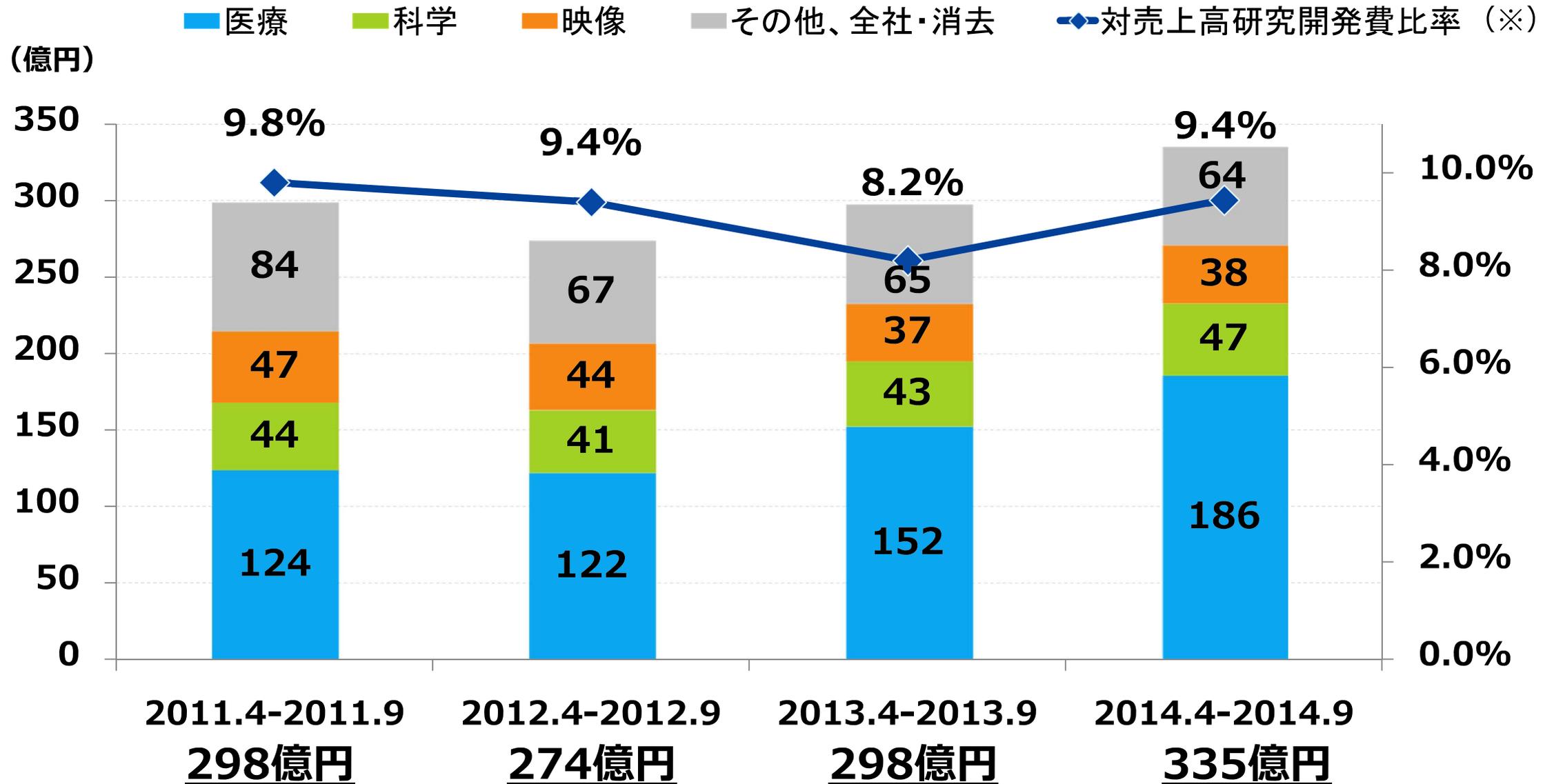
2015年3月期 下半期見直し

(億円)	2014/3期 下半期 (実績)	2015/3期 下半期 (見直し)	前年同期比 増減	
売上高	491	499	+8	売上高 <ul style="list-style-type: none"> ・ 欧米市場でOM-Dを軸に販売 ・ 日本市場ではPENの新モデルE-PL7投入によりてこ入れ ・ プロ仕様レンズラインナップ強化によるレンズ売上の増加 ・ 在庫圧縮のため、エントリーモデルは価格対応により販売
ミラーレス	246	343	+97	
コンパクトカメラ・その他	245	156	△89	
売上総利益	201	213	+12	売上総利益 <ul style="list-style-type: none"> ・ ミラーレス等高付加価値製品にシフト
販管費 (販管費率)	266 (54.2%)	242 (48.5%)	△24 (△5.7pt)	販管費 <ul style="list-style-type: none"> ・ 広告宣伝費等の削減によるコスト削減
営業損益	△65	△29	+36	営業損失縮小

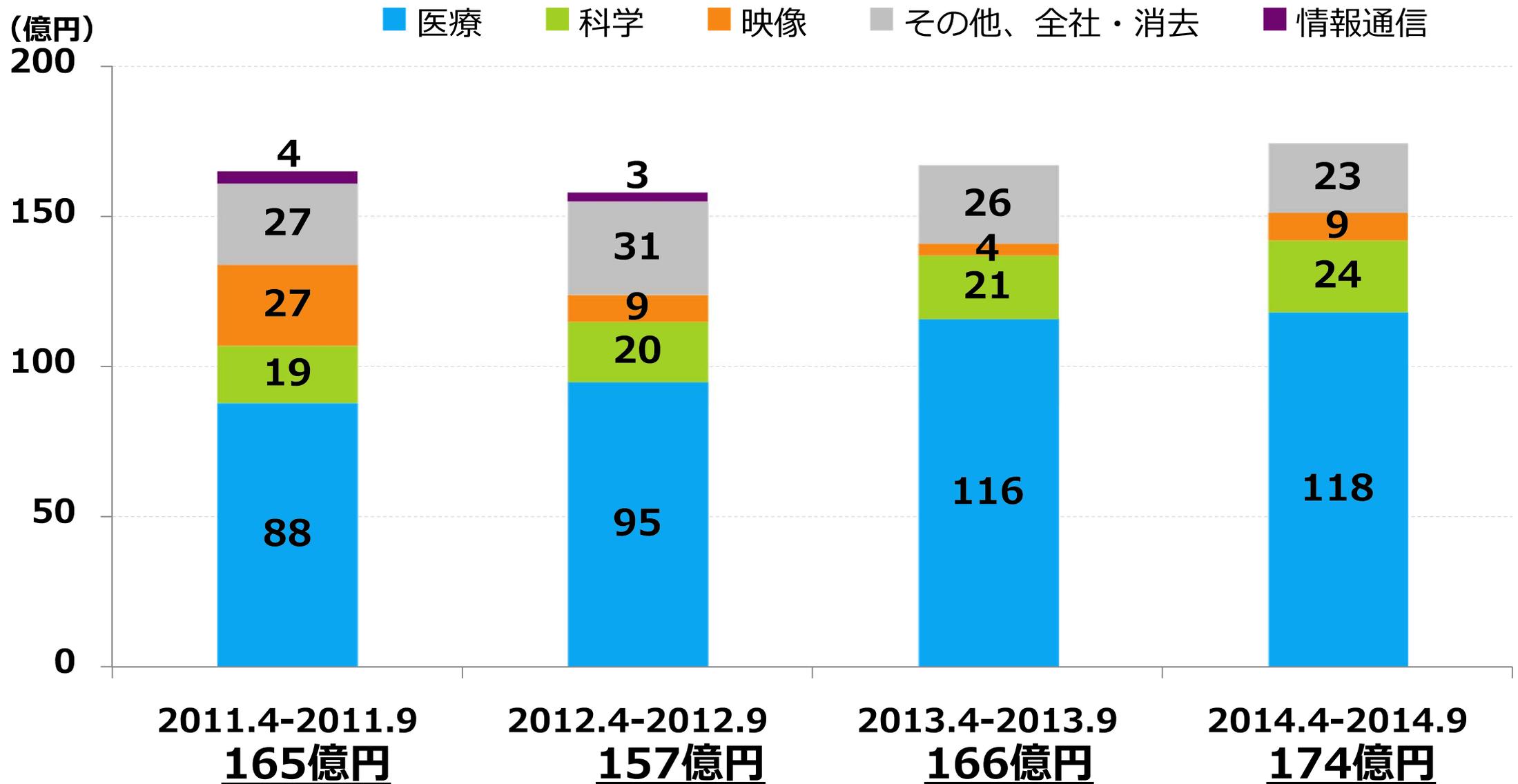
OLYMPUS

參考資料

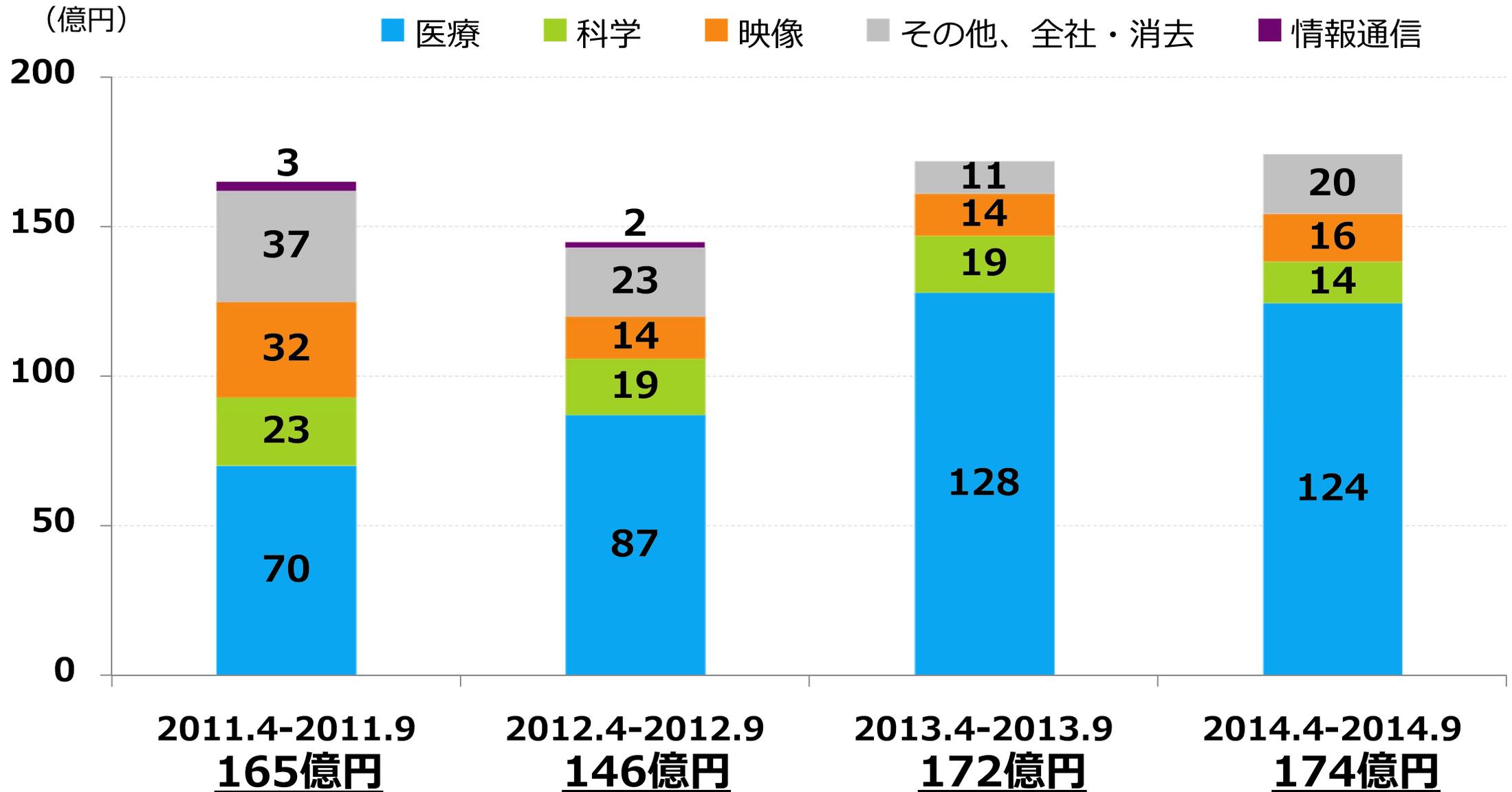
【参考資料】 研究開発費



【参考資料】 減価償却費



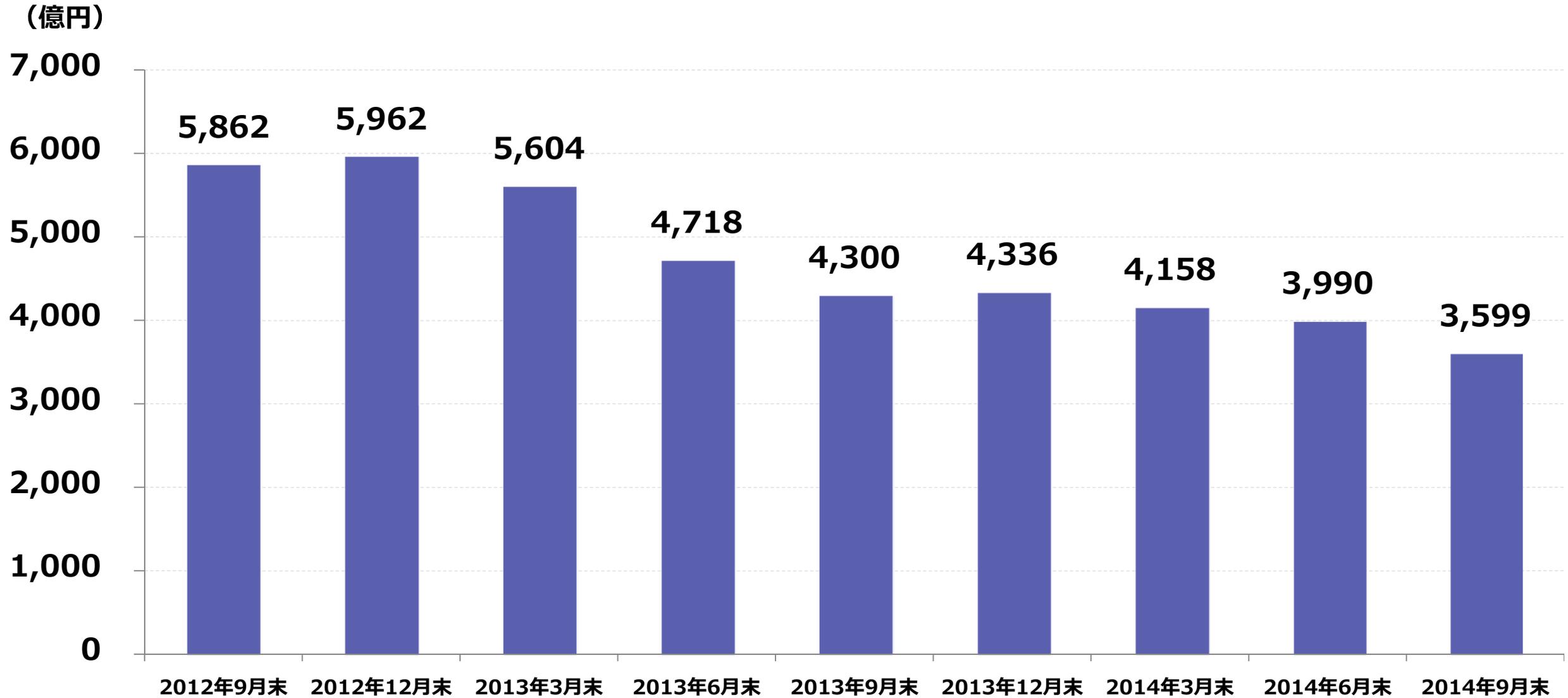
【参考資料】 設備投資



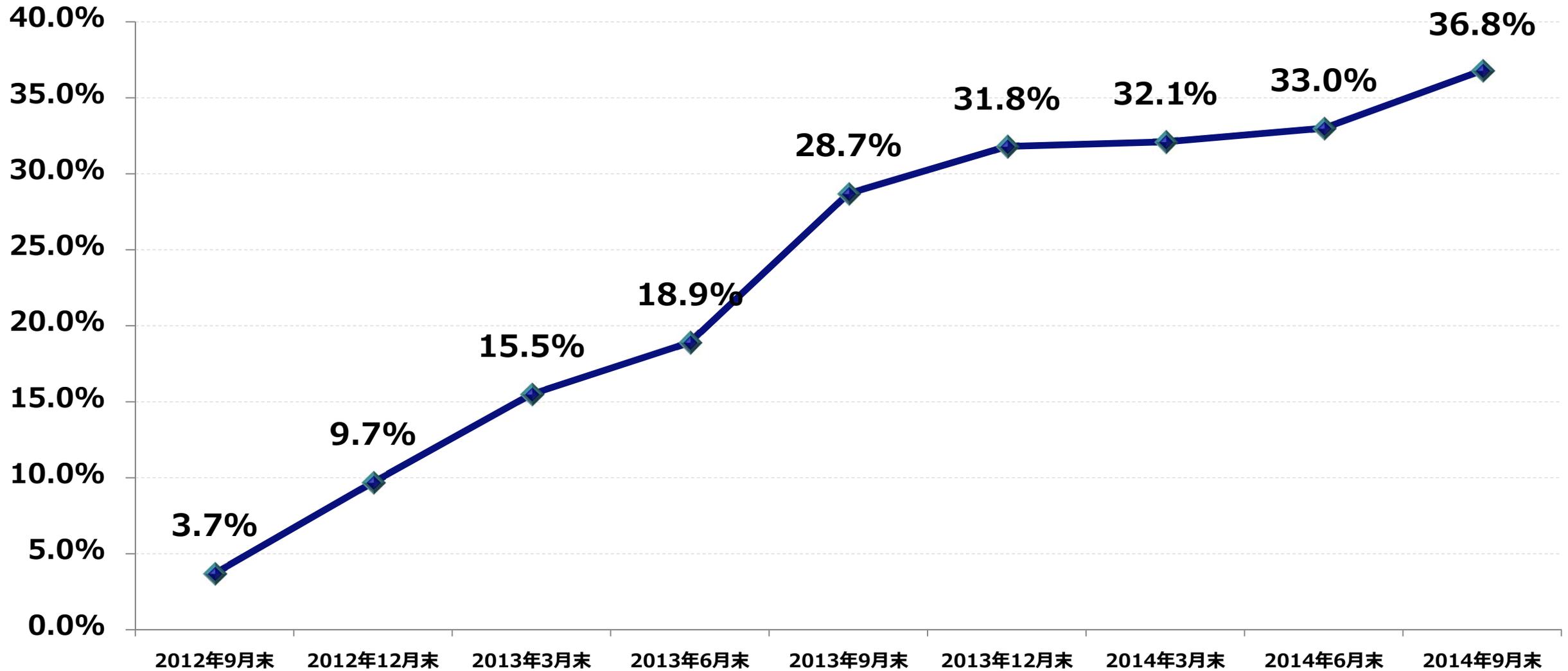
【参考資料】 中期経営計画 セグメント別業績目標

		2015年3月期 (期初見通し)	2015年3月期 (最新見通し)	2017年3月期
売上高	医療	5,400億円	5,480億円	6,500億円
	科学	1,040億円	1,040億円	1,350億円
	映像	970億円	900億円	1,000億円
	その他	190億円	180億円	350億円
	合計	7,600億円	7,600億円	9,200億円
営業利益	医療	1,150億円	1,185億円	1,500億円
	科学	45億円	50億円	150億円
	映像	△35億円	△75億円	90億円
	その他	0億円	0億円	10億円
	全社・消去	△280億円	△280億円	△320億円
	合計	880億円	880億円	1,430億円

【参考資料】 有利子負債



【参考資料】 自己資本比率



OLYMPUS

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。